

注 意 報

農技セ第4534号
平成26年2月3日

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成25年度農作物病害虫発生予察情報について

平成25年度農作物病害虫発生予察注意報第7号を公表したので送付します。

平成25年度病害虫発生予察注意報第7号

平成26年2月3日
徳 島 県

1月後半の巡回調査において、ハダニ類の発生が平年より多いことから、今後も発生が増加し多発生が懸念されますので、注意報を発令します。

現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：イチゴ
病害虫名：ハダニ類

1. 発生地域 県下全域
2. 発生時期 2月～
3. 発生程度 多(前年よりやや多く、平年より多い)
4. 注意報発令の根拠
 - (1) 2月前半の巡回調査では、発生圃場率が85.7%、寄生株率が28.9%、寄生葉率が16.1%であり、平年(38.4%、8.5%、4.8%)に比べて高めの発生である。
 - (2) 高松地方气象台が1月31日に発表した1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並と予想されており、発生にやや助長的な気象条件である。
5. 防除法等
 - (1) 多発生後は防除が困難となるので、ルーペや虫眼鏡等を用いて圃場全体をよく観察し、発生を確認したら直ちに防除を行う。
 - (2) 薬剤は十分な量で葉裏や葉柄にも付着するように丁寧に散布する。
 - (3) 薬剤抵抗性の発達を避けるために、同一系統薬剤の連続散布を控え、系統の異なる薬剤を輪番で使用する。なお、気門封鎖系薬剤は物理的に作用するため、抵抗性発達の防止に有効である(但し、葉害発生の恐れがあるので、薬剤散布に当たっては高温時や日射の強い時間帯を避けたり、散布液が果実などにたまらないように注意する。)
 - (4) 薬剤によっては、ミツバチへの影響があるので、薬剤の選定に当たっては注意する。
 - (5) その他、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。



ナミハダニ黄緑型成虫



ナミハダニ多発生株



ナミハダニ多発生葉